



宝和HD

地場力経営

宝和ホールディングス
（藤本俊社長 広島県福山市）

市はグループ全体でのシナジー創出を目指し、新拠点を整備や社内体制の再構築などハードとソフトの両面で改革を進めている。グループ各社が連携し、提供するサービスの価値を向上。働きやすさも追求し、社員の思いに

重宝に特化した倉庫を持つ新拠点を、2027年1月の稼働をメドに建設中。メインで取り扱う鋼材を、27年1月に稼働予定の建設中の新倉庫

などの保管に対応できる耐荷重を確保するほか、敷地にバンナーテッジを2台設置し、海上コンテナからのデバンニングにも対応する。港湾荷役を主体とするグループの福山海陸運輸（同）では、顧客とタイアップして行っているモーターリフトの拡大を見据える。

新拠点の情報をホームページに掲載したところ、問い合わせが既に多く届いている。海外から調達した資材のハブ中継拠点として利用したいといった国際物流に関する要望もあり、グループ全体で支援に臨む構えだ。

グループは、地域に根付いた高品質なパフォーマンスの提供を念頭に事業を展開。鋼材加工や販売を手がける宝和鋼業（同）には、モジュール加工の依頼が増えている。

近年は、同社と宝和運輸（同）の各担当者が共に顧客を訪れ、サービス体制を説明。材料の保管から加工など、一貫したサービスが提供できる強みが浸透してきた。

相乗効果をもたらす土台

拠点整備&体制再構築

社員の意見を積極採用

には、社内体制の再構築がある。3年前からグループ4社の全役員が毎月1回のペースで集結。ミッション、ビジョン、パリュエなどについて議論を重ね、社員の意見を積極的に取り入れる組織に変革した。

その効果として、グループ企業間のコミュニケーションが活発化し、それぞれが抱える現場の課題解決を後押し。企画を提案しやすい風土を醸成し、良いアイデアを迅速に取り入れている。

グループを率いる藤本社長は、社員の安全向上や働きやすさにつながる取組みへの投資に意欲的だ。制服の刷新やアコーディオン式トイレ、特殊作業用AI（人工知能）要約ソフトの導入など、多方面で改善を進めている。

松本治孝常務は「シナジーが少しずつ形になってきた。経営基盤をしっかりと整え、プロを育成し高品質なサービスを一丸となって提供していく」と話している。

（宮本 卓）